令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493600058	事業の開始年月日	平成18年10月1日
		指定年月日	平成18年10月1日
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北Ⅰ		
所在地	（〒245-0018） 神奈川県横浜市泉区上飯田町3795-9		
サービス種別 定員等	□　小規模多機能型居宅介護	登録定員　名 通い定員　名 宿泊定員　名	
	■　認知症対応型共同生活介護	定員計　18名 ユニット数　2ユニット	
自己評価作成日	令和元年11月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月3日

※　事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・地域カラーを活かした食事レクを行っています。
・月1回の行事と作品制作や掲示により、季節感を感じていただいております。
・認知症の理解に努め、「その方らしい」「当たり前の生活」の支援に努めています。
・一言通信は、各入居者様ごとに違うものを作成してご家族様へ送付することで、一か月のご様子がより伝わるよう工夫しています。
・職員がやりがいを感じ、働きやすい職場環境作りに取り組んでいます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地　日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和元年11月29日	評価機関評価決定日	令和2年1月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は、相鉄いずみ野線いずみ野駅からバスで5分程の、中屋敷バス停から徒歩5分ほどの小学校に隣接した場所に位置している。周囲は住宅団地や農地、学校が点在する田園地帯で静かな環境である。木造2階建ての2ユニットのグループホームで、隣には同じ法人のグループホームがある。2棟のホームは広いウッドデッキで繋がり、運営推進会議、防災訓練、事業所の夏祭り、ボランティアのイベントなどを合同で開催し、利用者、職員などが相互交流している。

【理念の実践】

「必要な人に必要なサービスの提供を。」という法人理念を基に、今年度になって職員全員がアイデアを出し合い、前管理者がまとめた事業所理念『「おはよう」から「おやすみ」まで安心して過ごせるホーム　笑顔あふれる「みんなの家」』を事務室などに掲示している。この理念を引き継いだ新任の管理者は、毎月の会議で、皆で理念を読み上げて、その周知徹底を図り、職員は自分たちで作った理念を理解し共感している。職員は、いつも笑顔で利用者に寄り添って語りかけ、相手の意向をくみ取って、やりたいこと、出来ることを無理強いせずにやってもらい、毎日を楽しく過ごすように支援している。訪問中もリビングでは、利用者が穏やかな顔で、テレビを見たり、お茶を飲みながら談笑したり、食後の食器洗いや食器ふきなどを行っていた。

【外国出身者への対応】

地域の団地には、様々な国籍の人が居住している。外国出身の職員が増えており、日本語習得をサポートしている。結果、日本語が上達し、他の職員や利用者との意思疎通が容易となった。新しい事業所理念も浸透させる事ができている。外国出身の利用者の入居については、本人の母国語が分かる職員の配置により、本人の意向に沿ったサービスを提供できる体制が整えられている。行政からの、外国出身の入居者受入れの問合せにも前向きに対応している。数年前には、外国出身の利用者が入居していた。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ　理念に基づく運営	１～１４	１～７
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援	１５～２２	８
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	２３～３５	９～１３
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	３６～５５	１４～２０
Ⅴ　アウトカム項目	５６～６８	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北Ⅰ
ユニット名	1U

Ⅴ　アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ全ての家族と
			2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1，大いに増えている
		○	2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての家族等が
		○	2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員からアイディアを募り、新しい事業所理念を作りました。各ユニットの事務所に掲示し、職員会議でも毎回読み上げ、実践に繋げられるよう努めています。	今年度『「おはよう」から「おやすみ」まで安心して過ごせるホーム笑顔あふれる「みんなの家」』という、新しい事業所理念を作成し、事務室に掲示している。毎月の会議で、理念を読み上げるなどして浸透を図っている。職員は、笑顔で利用者に寄り添い、楽しく暮らせるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事に参加しています。事業所の行事にお招きしたり、日常の散歩などを通して地域の方と触れ合う機会を作っています。	町内会に加入し、盆踊り大会に参加したり、子供会のこども神輿が立ち寄ってくれる。近くの小学校の運動会に招待され、出かけている。毎年、中学校の福祉体験学習を受け入れ、生徒が利用者と交流している。朗読劇を行う「もちもち文庫」、ハーモニカ演奏、民族楽器のボランティアが来訪している。ホームの夏祭りには、町内会長や近隣住民が訪れて、楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣中学校の福祉体験学習の受け入れを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、町内会役員、地域民生委員、地域ケアプラザ担当者を交え、事業所の取り組みや活動内容についての報告を行い、ご意見やご提案をサービス向上に反映させています。	運営推進会議は、隣の飯田北Ⅱホームと合同で年6回開催している。構成メンバーは、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、別法人の地域のグループホーム職員、飯田北Ⅰ・Ⅱホーム管理者である。泉区高齢・障害支援課職員が参加することもある。事業所の活動内容や事故・ヒヤリハットの報告の後、地域の情報交換などを行って、地区センターの「もみじ祭り」の情報をもらい、観賞に出かけた。	運営推進会議は、メンバーが多彩で意見交換が盛んです。今後は、家族に呼びかけて参加を得て、運営状況や地域情報を提供し、意見や要望を聴き取ることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護課の方にオムツの給付の相談や通院交通費の相談をさせていただいています。	泉区高齢・障害支援課職員とは運営推進会議出席時に情報交換をしている。区の生活支援課職員が、生活保護費受給者の面接に来訪した際に、生活状況を報告し意見交換を行っている。区役所から外国の方の受け入れに関する相談があり、対応出来ることを説明した。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月「身体拘束廃止委員会」を行い、束縛のないその方らしい生活支援について検討し、実践してい。ます。	玄関やユニット入口は、家族に説明し施錠している。1階からは、ウッドデッキを通じて、隣のホームに行ったり外に出ることが出来る。身体拘束廃止や高齢者虐待防止に関する委員会を毎月開催し、施錠の適正化について検討している。玄関ドアなどを開けようとしている利用者に「行かないで」などと制止の言葉をかけるのは、スピーチロックに繋がるため、出来るだけ一緒に出かけるなどの対策を話し合って共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の「虐待防止委員会」では、尊厳を重視した適切な認知症介護を理解し取り組むことで、拘束や虐待のない事業所作りに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修を受講して学ぶ機会をいただき、そこで得た知識、情報については毎月の職員会議で共有を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約前の実態調査では、できるだけ時間をかけ、サービスについてのご説明を行うとともに、ご家族様の疑問やご要望についてお伺いし、信頼関係を築くよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等に合わせて、年に2回家族会を開催し、ご家族様のご意見やご要望をお伺いしています。	玄関やユニット入口は、家族に説明し施錠している。1階からは、ウッドデッキを通じて、隣のホームに行ったり外に出ることが出来る。身体拘束廃止や高齢者虐待防止に関する委員会を毎月開催し、施錠の適正化について検討し、玄関ドアなどを開けようとしている利用者に「行かないで」などと制止の言葉をかけるのは、スピーチロックに繋がるため、出来るだけ一緒に出かけるなどの対策を話し合って共有している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所の全体会議、各ユニットの職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を作っています。また、定期的に面談を行い、職員の思いを引き出すよう努めています。	管理者は、職員が働きやすい職場となるよう心がけ、面談して一人ひとりの思いを聞き取るなど日常的に意見を聞くようにしている。事業所内の会議では、職員同士で働きぶりや他人への気配りなどの良い点を称え合ってホーム内表彰を行い、働く意欲をあげるよう取り計らっている。職員の提案で、餃子造りなどの食事レクリエーションを企画実行した。会議で話し合って、外用薬の塗布についてのルールを作ったり、利用者の朝の着替えで洗いたてを着てもらうため、洗濯を夜勤入りの職員が行うなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で行っているGST(Good Service Thanks)カードの他、事業所内でホーム内表彰を行い、些細なことでも努力や尽力された職員の表彰を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行っている各種研修の他、外部研修の案内をし、やりがいやスキルアップに繋げるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、情報の共有を図っています。また、地域にあるグループホームとの情報交換も行っています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の実態調査では、ご家族様だけでなく、ご本人様のお話を傾聴することに重きをおいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、ご契約、ご面会などの時間と機会を利用し、コミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「まごころベルサービス」によるリハビリマッサージや、「シニアセラピー」の利用等、ご提案させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食器後片付けなど、日常の家事手伝いをお願いすることで、共に生活する中での役割分担を図っています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お送りしている「一言通信」で、利用者様の日常のご様子を分かりやすくお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、ご友人や遠方のご親戚が来所された際は、居室のプライベートに配慮された中で談笑できる環境を提供しています。	重度化が進み、馴染みの関係が薄れてきた方もいるが、定期的に訪れる理美容師や乳酸飲料、パン移動販売が馴染みの関係になり、利用者が楽しみにしている。知人や友人が来訪した際には、居室に案内し湯茶でもてなしている。居室にコーヒーメーカーを置いている利用者は、友人が来訪した際にコーヒーを淹れて振る舞い談笑している。家族が迎えに来て、親戚の法事に出席する利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1、2F合同のレクリエーションや、1Fテラスを利用した外気浴、レクリエーションを通じて交流の機会を増やしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居時にホームでのお写真等をお送りしています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴や散歩の時間を利用し、利用者様のお話を傾聴し、思いをくみ取るよう努めています。また、定期的なカンファレンスで職員の気づきを共有しています。	利用者の想いや意向は、日常の会話の中で把握している。発語が難しい方でも、入浴時など職員と1対1になったときに、ふと本音を漏らすことがある。食器洗いをお願いしている利用者が、「お皿洗いが大変だ」と本音を漏らしたため、職員会議で検討し回数を減らした。水分摂取量の少ない方について、一人ひとりの好みを把握して、甘みを加えたり温めたりして飲んでもらえるように工夫した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に作成する「入居者情報」を元にその方の生活歴、志向を探り、介護サービス計画に反映しています。また、ご家族様から伺うお話は貴重な情報となっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援に携わる職員の気づきが大切な情報となっています。また、医療連携看護師と常に利用者様の状態を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけでなく、介護職員、医療連携看護師、訪問診療医師、看護師と連携し、利用者様個々に適したサービスが提供できるよう介護計画を作成しています。	介護計画は、利用者のニーズや課題を把握して、重要な事項を優先して長期・短期目標を設定し、具体的サービス内容を記載している。個別の生活記録に介護計画をファイルして、計画のサービス内容に付けた番号を引用して、実施状況を記録している。職員が作成した実施記録を基に、毎月行われるカンファレンスで話し合ってモニタリングを実施している。計画の見直しは、通常は3か月毎、状況が急変した際は随時実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に実践のナンバリングをし、カンファレンスの中で必要なサービスを見極めるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出が困難な方も多いため、訪問販売の利用や訪問理美容の提供、専門医(皮膚科、泌尿器科)の往診を受けていただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや、地域作物の購入を実施し、地域の中での生活が構築できるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご契約時に協力医療機関である内科、歯科の訪問診療の同意書をいただいています。内科訪問診療については、内科担当看護師と、医療連携看護師との連携を確立しています。	今年度、連携医療機関を24時間オンコールや看取りが可能な病院に変更した。提携内科医の往診は月2回で、病院看護師や薬剤師も同行している。訪問看護師が毎週訪問して健康管理などを行い、「医療連携看護師 連絡記録」に職員と看護師が相互に情報を書き込んで共有し、ケアの助言を行っている。歯科医は月2回往診している。歯科衛生士は毎週訪問し、口腔ケアなどを行っている。家族が通院同行した際には、口頭で診療情報を聴きとっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「訪問看護連絡帳」を利用し、介護職員と連携看護師の情報共有、ケアのアドバイス等が柔軟に行える関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療医であるやよい台内科・皮膚科と協力体制を築いています。また、他医療機関であっても、お見舞い、またはご家族様から状況をお伺いし、状況把握と早期退院に取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医であるやよい台内科・皮膚科、医療連携看護師と利用者様の終末についての判断と支援の方向性を共有し、ご家族様にご相談させていただいています。	契約時に、「重度化した場合の対応に係る指針」を説明している。重度化が進み、看取りの状況になった場合は、点滴や喀痰吸引など訪問看護師が対応できる範囲内で看取りが出来ることを説明し、家族から「看取り介護及び加算についての同意書」を受け取り看取り介護を行っている。実施にあたっては、看取り介護計画書を作成し、計画に従ってケアを行っている。看取り研修は行っていないが、職員は訪問看護師から口頭で助言を受けている。現在、１名の方の看取り介護を実施している。	医療連携体制加算算定の要件の1つである「重度化した場合の対応に係る指針」について、契約時に書面で同意を得ることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様急変時のフローや対応について掲示しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の緊急時避難訓練の他、地域の防災訓練に参加させていただいています。また、隣接するみんなの家・横浜飯田北Ⅱとの協力体勢も築いています。	防災訓練は、町内会消防団員3名立ち合いの下、利用者も参加して年2回実施している。夜間想定訓練や消火器訓練、AED操作を行った。訓練に参加していない職員は、訓練時の画像や訓練内容の記録を確認して情報共有している。水や食料は3日分を備蓄し、カセットコンロなどの備品も保有している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「虐待防止委員会」を通して、適切な認知症介護について学びを深め、利用者様が安心し安楽に感じる言葉かけに取り組んでいます。	事務室に「虐待ゼロへの行動指針」が掲示され、職員は出勤時に確認している。「高齢者虐待防止委員会」では、車椅子を押すスピードや不適切な事例を話し合って是正に努めている。職員は、トイレ誘導の際には、声かけは出来るだけ小声で行うよう心がけている。浴室は、パーテーションを使って、扉を開けた際に脱衣が見えないようにしている。個人情報を含む書類は事務室の施錠できる書棚に保管している。	リビング内にある記録等については、第三者の目に触れる可能性を考えて、個人名をイニシャルなどで表記したり、使用後には必ず目に触れないよう収納することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や就寝介助など、利用者様と一対一になる時間を利用し、利用者様本位の生活支援を探っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを決めることなく、その日その日の利用者様の状態、お顔色を読み取る様努め、望まれる過ごし方が提供できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はできる限りご本人に選んでいただいています。また、帽子やスカーフなどの小物に気を遣ったり、明るい色をお勧めしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを掲示し、食欲に繋げる工夫をしています。食欲のない方には無理強いせず、「食事量」ではなく、「おいしく」「楽しく」食べることを意識しています。	食事の献立は法人の管理栄養士が作成し、配達された食材を調理専門職員が調理している。利用者は、重度の方も座位をとって食事をしている。食べやすい刻み食なども提供し、職員は食事量よりも楽しく食べることを大切にしている。食器拭きや食器洗いをする方がいる。イベントでは弁当などの出前を取り、夏祭りでは手作りの餃子を提供している。刻み食対応をしてくれる中華レストランに外食に出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食部の管理栄養士が献立を作成しています。また、器や形状の工夫も行い、必要に応じて支援計画に反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員の利用者様に口腔ケアの仕上げ介助を行っています。口腔ケアを嫌う方には、受け入れやすい声掛けを支援計画に盛り込んでいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けや誘導を行っています。しかしながら立位をとることに大きく負担を感じている方には無理強いしない支援も行っています。	トイレは各ユニットに3か所あり、清掃は職員が行って匂いもなく清潔である。排泄チェック表を見て、タイミングを見計らってさりげなく誘導や声かけをしている。日中は、出来るだけトイレでの排泄を支援している。オムツ使用の方をケアしたところ、尿意があることが分かり、カンファレンスで対応策を話し合ってリハビリパンツにした事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼るだけでなく、十分な水分補給と適度な運動の提供に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は固定していません。無理強いはしませんが、定期的な入浴が提供できるようチェック表を作成しています。また、2Fの利用者様も可能な範囲で1Fのリフト浴をご利用いただいています。	原則として週2回、1日につき3名が入浴している。体調に応じて清拭やシャワー浴に変更している。1階にリフト浴があり、2階の方が入浴することがある。入浴を好まない方には無理強いせずに、日にちをずらすなどの対応をしている。浴槽の湯は足し湯でかけ流しにしている。入浴後は浴槽、浴室を清掃し、乾燥と消毒を行っている。暖房器具を設置して、ヒートショックを防いでいる。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「活動」だけでなく、「休息」も必要な支援と捉えています。就寝時はパジャマ更衣していただいたり、必要に応じて更衣や清拭、陰洗を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携看護師、連携薬局の薬剤師と連携し、服薬支援を行っています。服薬は確実で安全であるようその方に応じて工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に3回の訪問販売(ヤクルト、パン)は皆様大変楽しみにされています。ベランダやテラスでの外気浴は日課になっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事(お祭り、運動会)の参加や、年1回外食レクの機会を作っています。	天気の良い日は、事業所周辺を散歩している。1階のウッドデッキで外気浴や日光浴をする方もいる。職員と一緒に近所の商店へ買物に行ったり、自動販売機でジュースを買いに出かけることもある。車椅子の方も職員が付き添って出かけている。近隣小学校の運動会や町内盆踊り大会、近隣の公園の花見や地区センターのもみじ祭りなどにも出かけている。車椅子の方も一緒に中華レストランに外食に出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所、ご家族様で行っていますが、欲しい物が購入できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のところ、電話や手紙のやり取りを希望される方はいらっしゃいません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの作品を制作していただき、共有スペースを飾らせていただいています。またTVがつけっぱなしにならないよう、状況に応じてなじみ深い音楽のCDをかけたりしています。	共有空間は、バリアフリー構造で各所に手すりが設置されている。リビングは、窓が大きく採光がよく明るい。「週間掃除チェック表」で共有空間の掃除やリネンなど備品の交換を管理している。エアコンや床清掃は、業者に依頼している。リビングや廊下に、利用者や職員が作った季節を感じる折紙細工や行事の写真などが掲示されている。1階のウッドデッキは、日光浴、ボールゲーム、運動会など有効に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやテラスは利用者様同士の社交場になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお仏壇をお持ちになる方もいらっしゃいます。また、行事の際に差し上げた表彰状などを飾り、楽しかった思いを心にとどめていただけるよう努めています。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、 防炎カーテン、整理ダンス、介護用電動ベッド、洗面台が常備されている。利用者は、寝具や衣類、テレビ、家族の写真などを持ち込んだり、人によっては転倒時に備えて緩衝マットを敷いたりして、居心地良く整えている。居室担当職員が衣類の入れ替えや清掃を支援している。表札には、氏名のほか、自分で作った花の折紙細工を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に障害物がないよう気を配り、利用者様が安全に移動できるよう努めています。後ろから名を呼ぶのではなく、歩かれている方に寄り添う支援に努めています。		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北Ⅰ
ユニット名	2U

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ全ての家族と
			2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1，大いに増えている
		○	2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての家族等が
		○	2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員からアイディアを募り、新しい事業所理念を作りました。各ユニットの事務所に掲示し、職員会議でも毎回読み上げ、実践に繋げられるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事に参加しています。事業所の行事にお招きしたり、日常の散歩などを通して地域の方と触れ合う機会を作っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣中学校の福祉体験学習の受け入れを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、町内会役員、地域民生委員、地域ケアプラザ担当者を交え、事業所の取り組みや活動内容についての報告を行い、ご意見やご提案をサービス向上に反映させています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護課の方にオムツの給付の相談や通院交通費の相談をさせていただいています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月「身体拘束廃止委員会」を行い、束縛のないその方らしい生活支援について検討し、実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の「虐待防止委員会」では、尊厳を重視した適切な認知症介護を理解し取り組むことで、拘束や虐待のない事業所作りに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修を受講して学ぶ機会をいただき、そこで得た知識、情報については毎月の職員会議で共有を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約前の実態調査では、できるだけ時間をかけ、サービスについてのご説明を行うとともに、ご家族様の疑問やご要望についてお伺いし、信頼関係を築くよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等に合わせて、年に2回家族会を開催し、ご家族様のご意見やご要望をお伺いしています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所の全体会議、各ユニットの職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を作っています。また、定期的に面談を行い、職員の思いを引き出すよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で行っているGST(Good Servise Thanks)カードの他、事業所内でホーム内表彰を行い、些細なことでも努力や尽力された職員の表彰を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行っている各種研修の他、外部研修の案内をし、やりがいやスキルアップに繋げるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、情報の共有を図っています。また、地域にあるグループホームとの情報交換も行っています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の実態調査では、ご家族様だけでなく、ご本人様のお話を傾聴することに重きをおいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、ご契約、ご面会などの時間と機会を利用し、コミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「まごころベルサービス」によるリハビリマッサージや、「シニアセラピー」の利用等、ご提案させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食器後片付けなど、日常の家事手伝いをお願いすることで、共に生活する中での役割分担を図っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お送りしている「一言通信」で、利用者様の日常のご様子を分かりやすくお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、ご友人や遠方のご親戚が来所された際は、居室のプライベートに配慮された中で談笑できる環境を提供しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1、2F合同のレクリエーションや、1Fテラスを利用した外気浴、レクリエーションを通じて交流の機会を増やしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居時にホームでのお写真等をお送りしています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴や散歩の時間を利用し、利用者様のお話を傾聴し、思いをくみ取るよう努めています。また、定期的なカンファレンスで職員の気づきを共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に作成する「入居者情報」を元にその方の生活歴、志向を探り、介護サービス計画に反映しています。また、ご家族様から伺うお話は貴重な情報となっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援に携わる職員の気づきが大切な情報となっています。また、医療連携看護師と常に利用者様の状態を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけでなく、介護職員、医療連携看護師、訪問診療医師、看護師と連携し、利用者様個々に適したサービスが提供できるよう介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に実践のナンバリングをし、カンファレンスの中で必要なサービスを見極めるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出が困難な方も多いため、訪問販売の利用や訪問理美容の提供、専門医(皮膚科、泌尿器科)の往診を受けていただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや、地域作物の購入を実施し、地域の中での生活が構築できるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご契約時に協力医療機関である内科、歯科の訪問診療の同意書をいただいています。内科訪問診療については、内科担当看護師と、医療連携看護師との連携を確立しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「訪問看護連絡帳」を利用し、介護職員と連携看護師の情報共有、ケアのアドバイス等が柔軟に行える関係を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療医であるやよい台内科・皮膚科と協力体制を築いています。また、他医療機関であっても、お見舞い、またはご家族様から状況をお伺いし、状況把握と早期退院に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医であるやよい台内科・皮膚科、医療連携看護師と利用者様の終末についての判断と支援の方向性を共有し、ご家族様にご相談させていただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様急変時のフローや対応について掲示しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の緊急時避難訓練の他、地域の防災訓練に参加させていただいています。また、隣接するみんなの家・横浜飯田北Ⅱとの協力体勢も築いています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「虐待防止委員会」を通して、適切な認知症介護について学びを深め、利用者様が安心し安楽に感じる言葉かけに取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や就寝介助など、利用者様と一対一になる時間を利用し、利用者様本位の生活支援を探っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを決めることなく、その日その日の利用者様の状態、お顔色を読み取る様努め、望まれる過ごし方が提供できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はできる限りご本人に選んでいただいています。また、帽子やスカーフなどの小物に気を遣ったり、明るい色をお勧めしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを掲示し、食欲に繋げる工夫をしています。食欲のない方には無理強いせず、「食事量」ではなく、「おいしく」「楽しく」食べることを意識しています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食部の管理栄養士が献立を作成しています。また、器や形状の工夫も行い、必要に応じて支援計画に反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員の利用者様に口腔ケアの仕上げ介助を行っています。口腔ケアを嫌う方には、受け入れやすい声掛けを支援計画に盛り込んでいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けや誘導を行っています。しかしながら立位をとることに大きく負担を感じている方には無理強いしない支援も行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼るだけでなく、十分な水分補給と適度な運動の提供に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は固定していません。無理強いはしませんが、定期的な入浴が提供できるようチェック表を作成しています。また、2Fの利用者様も可能な範囲で1Fのリフト浴をご利用いただいています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「活動」だけでなく、「休息」も必要な支援と捉えています。就寝時はパジャマ更衣していただいたり、必要に応じて更衣や清拭、陰洗を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携看護師、連携薬局の薬剤師と連携し、服薬支援を行っています。服薬は確実で安全であるようその方に応じて工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に3回の訪問販売(ヤクルト、パン)は皆様大変楽しみにされています。ベランダやテラスでの外気浴は日課になっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事(お祭り、運動会)の参加や、年1回外食レクの機会を作っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所、ご家族様で行っていますが、欲しい物が購入できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のところ、電話や手紙のやり取りを希望される方はいらっしゃいません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの作品を制作していただき、共有スペースを飾らせていただいています。またTVがつけっぱなしにならないよう、状況に応じてなじみ深い音楽のCDをかけたりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやテラスは利用者様同士の社交場になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお仏壇をお持ちになる方もいらっしゃいます。また、行事の際に差し上げた表彰状などを飾り、楽しかった思いを心にとどめていただけるよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に障害物がないよう気を配り、利用者様が安全に移動できるよう努めています。後ろから名を呼ぶのではなく、歩かれている方に寄り添う支援に努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名　GH横浜飯田北I

作成日　2020.2.20

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議にご家族様が参加していない	ご家族様の参加	運営推進会議を行事の日などに行いご家族様が参加しやすいようにする	来年度中
2	33	「重度化した場合の対応に係る指針」について、契約時に書面で同意をとっていない	「重度化した場合の対応に係る指針」について、契約時に書面で同意をとる	本部に同意欄を作ってもらえるよう打診する	6ヶ月
3	36	リビングにある帳票類の個人名が第3者の目に触れる可能性がある	個人情報が第3者の目に触れないようにする	記入が終わった帳票類はフロアではなく事務所内に置く	3ヶ月
4					
5					

注）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注）項目数が足りない場合は、行を追加すること。